

弥富市火葬場整備基本構想 概要版

1. 業務の目的

弥富市火葬場は、昭和 50 年 2 月に竣工している。竣工後 40 年以上が経過しており、施設の老朽化や狭隘がみられるとともに、火葬炉設備の老朽化への対応など、長期的な展望に基づいた対策が求められている。

本業務は、弥富市における火葬場を長期的かつ総合的視点にたって適正に推進するために、「墓地、埋葬等に関する法律」等の法令に基づき計画する火葬場建設にあたり、基本的な方針を定めた基本構想の策定を行う。

2. 業務の概要

本業務は、本市の現状を把握したうえで、本市が計画する火葬場の施設計画（案）を検討し、火葬場建設の基本構想を策定する。

1. 現況把握

火葬場の建設にあたり本市及び周辺市町村の現況把握を行い、火葬場の必要炉数の算定及びゾーニング

2. 施設規模の算定

必要な施設規模の算出：将来人口予測、死亡者数予測を行い、必要炉数について算出

3. 基本条件の設定

基本理念の設定及びコンセプトの策定、土地利用計画（駐車場台数、ゾーニング）を作成

4. 基本計画

火葬場建設計画の概要を取りまとめ、類似の事例等から施設配置計画基本図案を作成

5. 概算事業費の算出及び工程計画の検討

施設規模に応じた建設費及び維持管理費並びに既存施設解体費に関する概算事業費の算出

6. 発注方式の検討

火葬場建設工事において、競争性・透明性を高め、入札・契約制度等の発注方式について検討

7. 運営管理方式の検討

運営管理方式の種類とその特徴について検討

3. 現在の弥富市火葬場の概要

1) 弥富市火葬場の概要

現在の弥富市火葬場は、農地が広がる市の南端部に位置し、敷地は潮見台霊園に隣接している。近くに富浜緑地や港があるなど、付近は工場や物流センターとなっている。竣工当時は、火葬棟と管理室の 2 棟式で、火葬棟には斎場（炉前ホール）に火葬炉 3 基、汚物炉 1 基が設置。管理棟には管理人住宅とロビー形式の待合室と和室 3 室が設置された。その後、平成 22 年に待合室が増築され、現在に至っている。なお、汚物炉は現在動物炉として使用されている。

2) 施設概要（現状）

- ① 敷地面積 6,276.74 m²（公園 1,400 m²程度を含む）
- ② 建築面積 597.40 m²
- ③ 延床面積 542.70 m²（増築面積 131.04 m²を含む）
- ④ 建築構造 鉄筋コンクリート造（増築待合室は鉄骨造）
- ⑤ 建物概要 火葬棟 斎場（炉前ホール）、安置室、炉室、監視室
管理棟 事務所、待合室、和室 3 室、管理人住宅
- ⑥ 火葬炉設備 火葬炉 3 基（普通炉 2 基、大型炉 1 基）、動物炉 1 基

4. 基本理念の設定及びコンセプトの策定

新火葬場の整備にあたり、施設整備の基本方針を次のように定める。

1. 将来の多様なニーズに対応できる施設づくり

将来の火葬需要と葬送の多様化に対応

2. 会葬者に配慮した人生の終焉の場に相応しい施設づくり

落ち着きと安らぎの感じられる施設

3. 安全・安心な人にやさしい施設づくり

災害対策を図り、ユニバーサルデザインを採用した誰もが使いやすい施設

4. 周辺環境に配慮した潤いある施設づくり

周辺環境にやさしい施設

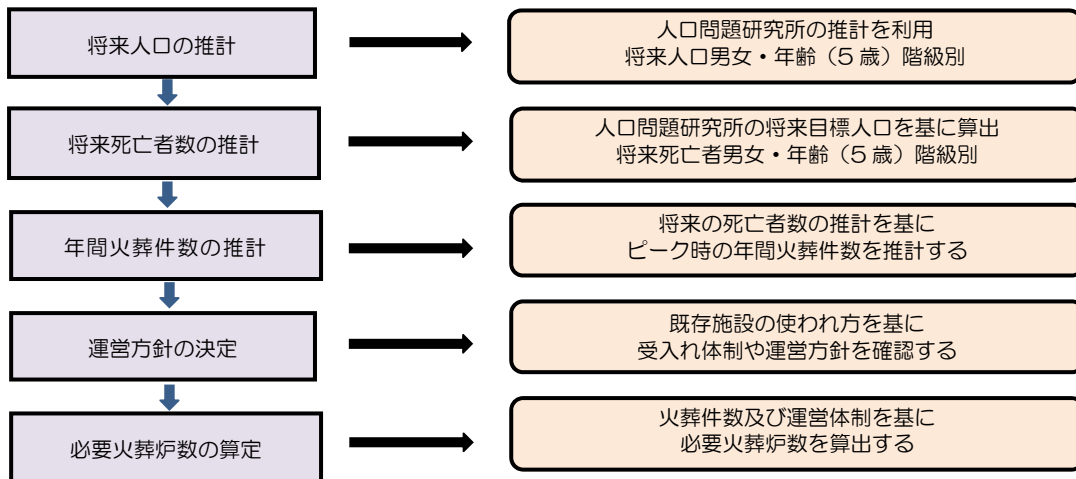
5. 環境に配慮し、維持管理がしやすく効率的な施設づくり

費用対効果を見込んだ整備手法の決定と効率的な施設

5. 火葬炉数算定の考え方

1) 火葬炉数算定の考え方

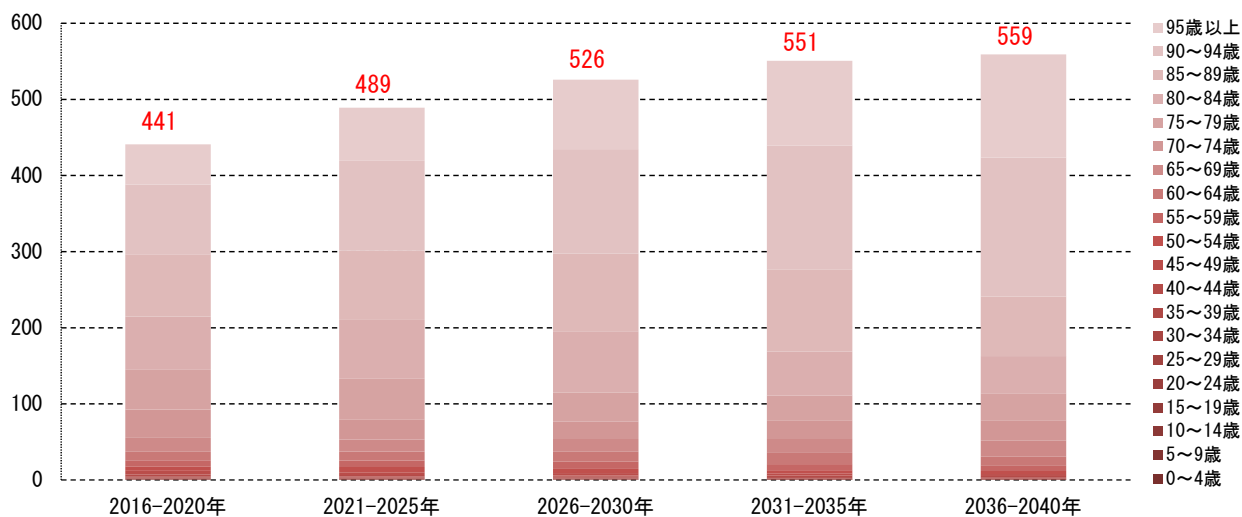
将来の死亡者数を基に定めた運営方針から必要な火葬炉数を導き出す。



火葬炉数算定のフロー

2) 死亡者数の推計

国立社会保障人口問題研究所発表の人口推計データ及び5年間の生存率をもとにして求めた弥富市の死亡者数の推計値を図に示した。



弥富市の死亡者数の推計値（5年間の平均値）

6. 必要炉数について

1) 必要基数について

2036年-2040年のピーク期において、死亡者数は2016年度の1.41倍の559体と推計されている。市外は考慮せず、ピーク期における火葬数は死産児7体を含めると566体となる。

● 2036年-2040年のピーク期における年間火葬件数 566体

火葬が多い冬場でも稼働日1日平均火葬数2.2体となるが、現在でも最大受入数（1日7件）の火葬日もあり1炉あたりの火葬数が2回転以上の日もある。円滑な運転をしていく上では、ピーク期においても3基の火葬炉が必要となる。

● ピーク期において 3基の火葬炉が必要

2) 動物炉必要基数について

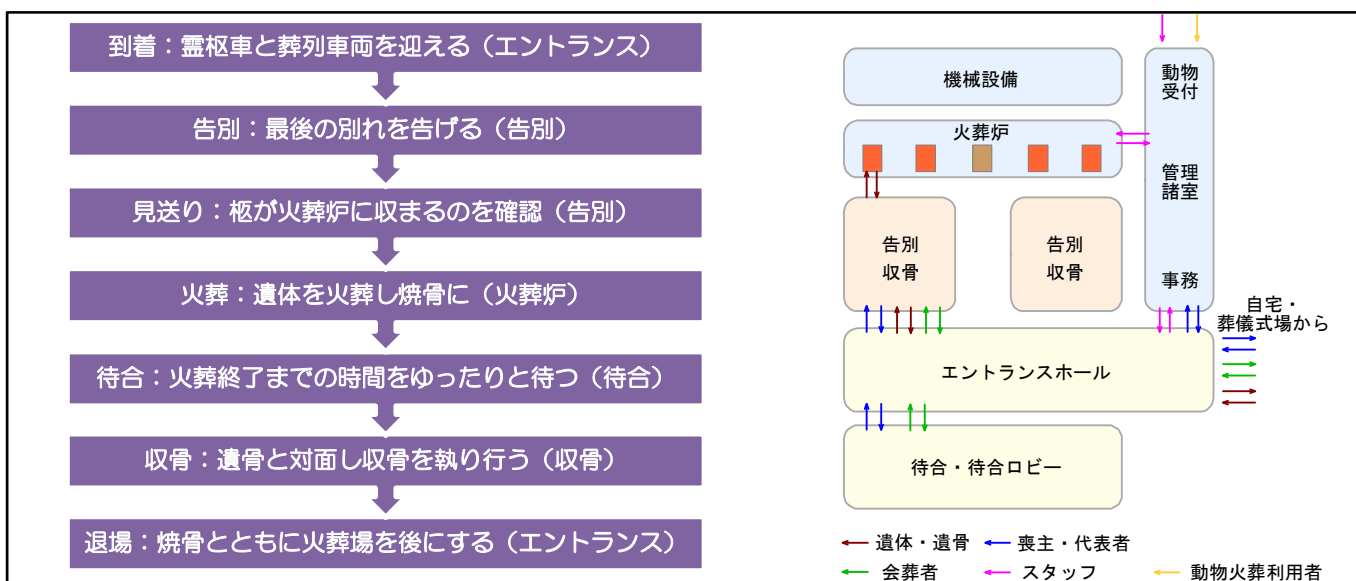
現在の火葬場にも動物炉が設置されており、利用件数も多い。愛玩動物としてペットに愛着がある方が増えており、近隣自治体の火葬場にも動物炉が設置されている。

● 動物炉 1基の火葬炉が必要

7. 施設等の構想について

1) 火葬場の機能

火葬場は、死に関わり全ての人の生活に密着した施設である。故人との最後のお別れとなる「告別行為」火葬炉に入るのを見送る「見送り行為」、焼骨を確認し遺族らによる「収骨行為」によって、故人の死を確認し死を受容する場となっている。葬送行為の流れと火葬場の機能図を示した。



葬送行為の流れと火葬場の機能図

2) 新火葬場の機能

条件及び現状の使い方を含め検討を行い、新火葬場の面積と各諸室を示す。

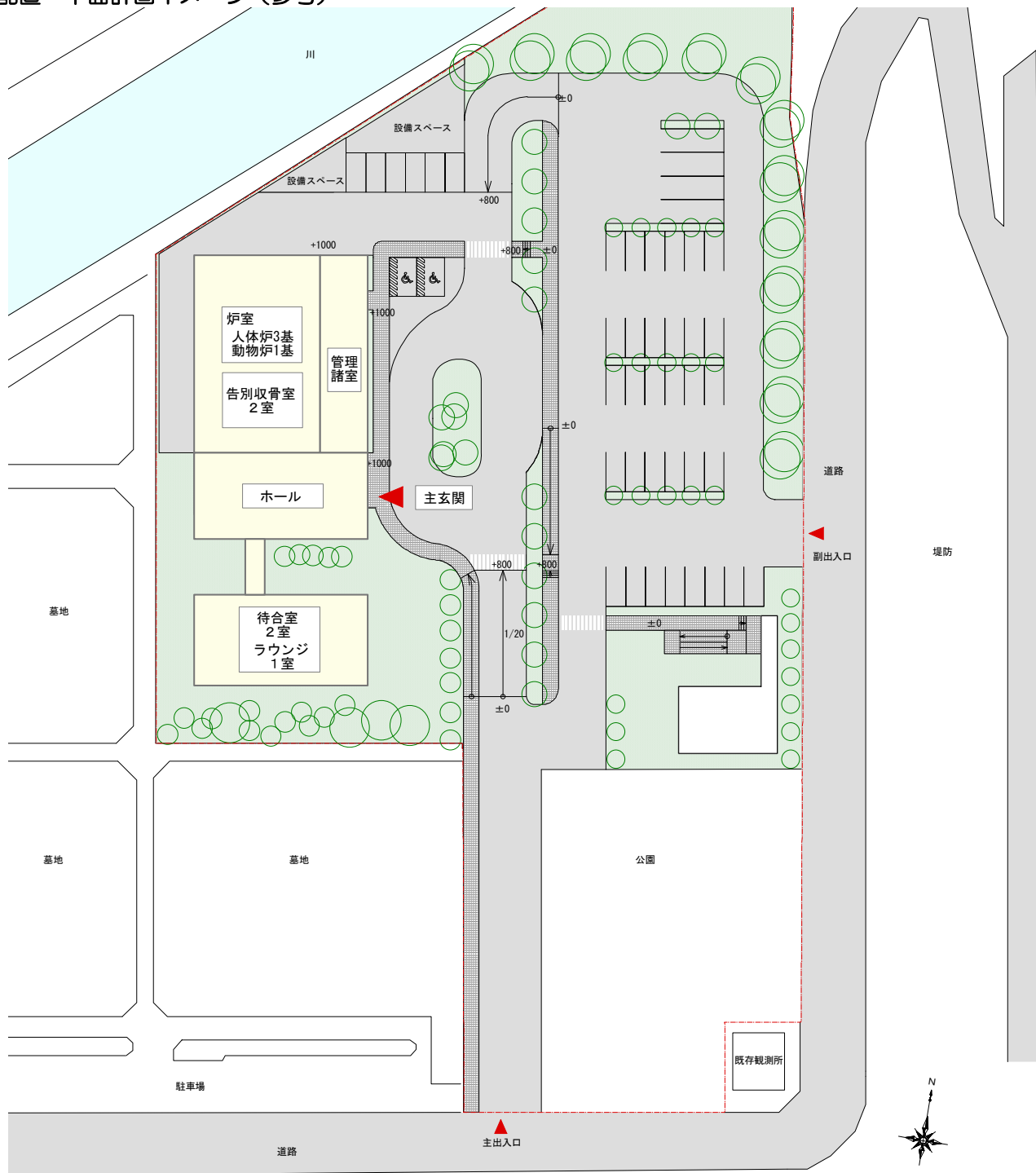
- ① 共用ゾーン エントランスホール、風除室、男女WC、多目的WC
- ② 火葬ゾーン 告別・収骨室（見送り・収骨を一体化、火葬炉2基1室で構成）2室
事務室、火葬炉監視室、台車置場、残灰室、霊安室、動物受付室
火葬炉3基、動物炉1基、集じん装置バグフィルター
- ③ 待合ゾーン 待合室和洋室（30人収容）2室、待合ロビー、自動販売機、給湯室、授乳室、キッズコーナー、喫煙所（屋外設置）
- ④ 駐車ゾーン 乗用車38台（会葬者用32台、職員用5台、動物火葬1台）、身障者用2台、マイクロバス4台

平面計画と配置計画を検討した結果。

● 施設の延べ床面積は 1,200~1,300㎡程度

● 敷地面積は西側墓地敷地を含め 7,660㎡程度（公園 1,400㎡程度を除く）

3) 配置・平面計画イメージ（参考）



8. 新火葬場の概算工事費と財源について

新火葬場の概算工事費は10.8億円を想定している。また財源として、合併推進債の活用を予定している。

9. 事業スケジュールの検討

新火葬場建設までのスケジュールを以下のように想定する。

平成 29 年度	基本構想
平成 30 年度	地質調査・基本設計
平成 31 年度	実施設計・造成工事
(2019 年度)	
2020 年度	建設工事
2021 年度	供用開始・既存火葬棟などの解体